

南アフリカ タイ向けリンゴ輸出の再開でアジアでの存在感を拡大

[FreshFruitPortala](#) 2025年4月14日

先週、南アフリカ産のリンゴが16年ぶりにタイに到着し、これは両国間の新たな貿易パートナーシップを象徴している。

植物検疫上の懸念によりタイの柑橘類市場は南アフリカに対して閉ざされていたが、両国の農業当局の共同作業を通じて解決され、高い食品安全基準(原文のまま)を確保するための新たな植物衛生プロトコルが確立された。

南アフリカ・リンゴ協会の対タイ代表であるサシン・キュラーナー氏は本サイト(Freshfruitportal.com)に対し、タイは南アフリカにとってかつての非常に重要な市場であり、それを再構築して新たな高みに引き上げる機会を得たことは大変エキサイティングであると語った。(以下「」は同氏の話)

「かつて市場アクセスがあり取引ができていた時には、消費者は我々の果実の品質と風味を高く評価していた。そのため、これ(市場の再開)はタイの消費者が再び我々の果実を試す絶好の機会である。」

キュラーナー氏は、この初めてのシーズンに約300コンテナを出荷し、今後数年間で増やす予定であると述べた。

「我々は、これらのプレミアム果実を市場に投入することに多大な熱意を示してくれたフローラキャピタル社をはじめとするタイの輸入パートナーに大変感謝している。我々は、包括的な販促活動と小売店内の販売促進で輸入業者と小売パートナーを支援する。タイの消費者は、世界の最高品質の青果物にアクセスするに相応しい顧客である。ロイヤルガラ、グラニースミス、ピンクレディー、ジョヤなどのプレミアムなリンゴ品種は、新たな風味と選択肢を市場にもたらすだろう。」

この市場再開により、タイにおける輸入果実の提供が大幅に多様化し、消費者は一年中リンゴを入手できるようになると期待されている。南アフリカの季節が逆転した生産は、北半球の栽培サイクルを補完する。

キュラーナー氏によると、業界の専門家達は、消費者の健康意識が高まり果実の消費量が増加し続けているタイ市場での力強い成長の可能性に期待を寄せている。

市場での競争

タイ市場における他の原産国との競争の可能性についてキュラーナー氏は、「どこに行っても南アフリカ産果実に対する強い嗜好を目の当たりにしてきたので、我々が誰かと競争しているとは思わない。それがタイでも続くことを願っている」と述べた。とは言え、同氏は他国の果実が同時期に市場に出回ることを認めた。

南アフリカでは2月にリンゴの出荷を開始し、晩生の品種を8月まで収穫できる。「ただし、我々はほぼ年間を通じて出荷することができる。」

南アフリカ産リンゴの将来の市場開放

南アフリカ産リンゴがアジアで存在感を増す中、キュラーナー氏は、タイへの復帰が「近隣地域に次第に影響を与えることは間違いない」と話す。

しかし同氏は、これが近い将来、他のどの市場へのアクセスにつながるかを語るのは時期尚早であると指摘した。「おそらく今から3カ月後には、どこで市場を拡大できるかについてももう少しお話しできるだろう。」

執筆者: セバスチャン・ラミレス

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)